
アイドルマスター ゼノグラシア 死神の物語

紅夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

アイドルマスター ゼノグラシア 死神の物語

【NZコード】

N4829Y

【作者名】

紅夜

【あらすじ】

この物語は、「真恋姫無双 死神の名を継ぐ者」のアナザーストーリーです

天使の起こしたミスにより、ある世界に転生した主人公たち
彼らが行つた世界はアイドルマスターの世界なのだが…

運命編 第零話 運命の始まり（前書き）

きっかけは、天界でのある出来事だった…

運命編 第零話 運命の始まり

天界とある部屋

ガンツ！！

天使ーああー！！もう…どうしてこうなった！

天使は目の前のバネルに触れながら咳してしまふ。

「ノホロ・・・・なせ ギサマガニはレナ」

御子は御の上言である方ホロがいた

元傳 あんぜん

元日

元伊達の政治と文化

卷之三

「アホ、お前が何をやっているのか？」

アホには上へを交かせた声で天使を聴くと

天使 - てもほら -

力タ力タ力タ力タ

ピピッ！

天使はモニターにある画面を出した

天使「世界の歪みだけで済みましたよ」

アポロ「…………」

アポロは天使の襟首を掴み壁に投げた

アポロ「お前、こんな事をしたら世界がどうなるか分かつてんだろう！」

天使「ヒイツ！？」

アポロ「キサマは、地獄の牢獄にいた方がピッタリだな……」

アポロは右手に真紅の炎を貯めると…

アポロ「今、天使としての権限と価値を破棄し、その翼を燃やしてから地獄に落としてやる」

アポロは天使の顔を掴みながら言つと…

天使「あ、アポロさま！許して下さい！」

アポロ「プロミネンスフレイム 真紅の炎！」

アポロは真紅の炎で天使を燃やし、地獄に落としたが…

アポロ「さて、ハイシはどうが…」

アポロはモニターを見ていると…

アポロ「…………？」

アポロはモニターのある世界を見るとどこかに連絡した

アポロ「N0.107、N0.108、N0.109の三人を予定の世界からこの世界に変更、パートナーは予定通りにし、専用機を用意、30分?5分でやれ!…」

こうして、天使のミスにより起きたこの事はやがて、どんなに事件になる事は誰も知らなかつた…

運命編 第零話 運命の始まり（後書き）

運命編 第一話 転生者（前書き）

この物語は大きく分けて四つに分けられます

運命編 第一話 転生者

天界 廊下

黒髪の男は赤髪の男や両目の色が違う男と歩いていた

？？？「なあ翔、いつたいなにがあつたんだ？」

？？？「知らねえよ、だけど、かなりヤバい氣がするんだ…」

すると赤髪の男は・・・

？？？「ねえ、もしかしたら僕らの転生先が決まつたんじゃないの？」

そう、彼らは一度死んだ者だが、転生者として生きてるが…行き先が決まつていなかつた

？？？「つたく、勇や統魔も少しほ緊張しろ」

この三人の男は

黒髪の男＝翔

赤髪の男＝勇

両目の色が違う男＝統魔

らしい

翔「さて、行きますか」

話してゐるついに、神の集まる部屋

シンオウカイギシツ
神王會議室に着いた

神王会議室

ガチャ

三人「失礼します」

ガチャ

翔達の前には様々な神がいたその中で…

アポロ「今回、三人あつまつてもうつたのは他でもない」

翔「いいからやつを言えよ、アポロさんよ」

アポロ「…わかった」

アポロはモニターにある画面を出した

アポロ「今回、お前たちには世界の修復をやってほしい」

勇「修復？」

統魔「どこの世界に行くんだよ？」

するとアポロは重い口を開いた…

アポロ「一応、アイドルマスターの世界なのだが…」

翔「アイドルマスター…？」

アポロ「まあ、今から逝つてこい」

三人「・・・えつ？」

三人の足元に真っ暗な穴が開き、落ちた

三人「のわああああああああああ！」？」

こうして、三人はアイドルマスター？の世界に向かつた

運命編 第一話 転生者（後書き）

この話の主人公の設定は真恋姫無双 死神の名を継ぐ者と同じです
ちょっとキャラの性格が違つたりしますが…

次回は原作キャラが登場？

運命編 第一話 死神と雪の少女（前書き）

タイトルから分かる通りにあの子が出ます！
作者はどのシリーズでもこの子が一番好きです！

運命編 第一話 死神と雪の少女

「アイドルマスター？」の世界

翔「ここって日本じゃね？」

翔たちが落ちた所はなんと日本だった！

勇「懐かしいね」

統魔「ああ……」

すると…

ヴウウウ…！」

いきなりサイレンが鳴った

「HDO」が通ります、気をつけ下さー

翔「HDO？」

そして…・

ギュイ——ン…！」

線路からロボットのような機体が現れ、宇宙に向かった

モンテンキントジャパン本部（玉兔高校の地下）

あずさ「状況は？」

名瀬「レモンのドロップです。」

あずさ「距離は？」

檀馬「ポイント、ベータ4です！」

ジヨセフ「あずささん、HDOには行かせましたか？」

あずさ「真がネーブラで発進しました」

ここは、地球に向かつてぐる隕石（通称ドロップ）を大気圏外で破壊する組織

モンテンキントジャパン本部である
そしてみんなが見守るモニターの先には翔たちがみたロボットが写つていた

宇宙 地球の近く

あずさ「真、ドロップを目視出来た?」

真「ああ一応見えたけど、これメロンじゃない?」

真が目視した物は実際より小さいが…

あずさ「いいから、ちゃんと破壊してみる

真「言われなくとも…」

真は右のハンドローラー後ろに引くと、ネーブラも右腕を引いた

真「破壊するよ…」

真はコントローラーを前に突きだし、ネーブラは右腕をドロップにぶつけた!

グシャン!!

ドゴオオオオオオオオン!!

モンテンキントジャパン本部 指令室

名瀬「ドロップの破壊を確認しました」

空羽「ネーブラは、アルファ G 4 に帰還して下さい」

真「了解」

あずさたちがドロップ破壊をした一方、

東京 公園

翔（はあ……勇たちとはぐれたな……）

翔は公園のブランコに乗りながら思つた

翔（しかし、この場所どこだ？）

すると翔の足元になにかが当たつた

翔「・・・？」

翔は力ギラしき物を拾つた
それは、回りは白色で真ん中にオレンジの棒がある力ギだつた
そこに…

？？？「すいません！」

大人しそうな茶髪の少女が現れた

翔「これ、お前の？」

？？？「あつ、はい！」

翔「ふーん… そうだ、この場所知らない？」

？？？「えつ？」この場所ですか！？」

翔「知つてるの？」

？？？「私もこれから行く所なんです」

翔「おつマジか、じゃあ一緒に行く？」

？？？「はい！あつ、私は萩原雪歩です」

翔「俺は黒宮翔、よろしく雪歩」

雪歩「はい、それじゃ行きましょーう」

そして、翔と雪歩は指定場所である玉兎高校にむかった

玉兎高校

? ? ? 「 」 が 指定 場所 ! ?

? ? ? 「 」 が 指定 場所 な の 伊織 ち ゃ ん ?

両髪をリボンで結んだ少女とオーティーが輝いてる少女はの指定場所に
來た

伊織（律子の奴、来てないじゃないの！）

すると…

律子「いやあ『めんね』一人共、遅くなつたよ」

インテリ風の女（律子）が現れた

伊織「律子！このバカリボン（春番）と一緒にいたせいで迷つたじ
やない！」

春香「でも、伊織ちゃんだつて半泣きだつたじやん」

春香は伊織にグサツつて来る事を言った

伊織「ああもうー良いから早く連れて行きなさいよーー。」

「うして、新たなアイドルマスター候補者は玉兎高校に行き、モンデンキンントーリP本部に向かつた

勇と統魔「俺たち（僕たち）も着いたからな（ね）ー！？」

運命編 第一話 死神と雪の少女（後書き）

やつせつ、こみゅね

翔「まあ、IJの世界の雪歩は別らしこが…」

「・・・俺の出番が少ない」

仕方ないよ、モブ・・・じゃなくてめんどくさかつたから

勇者一翻やつちぎいけないですよ！？

次回もよろしくお願いいたします！！

運命編 第二話 黒宮翔の悲劇（前書き）

今回は、コメディが強い気がします
もちろん、原作キャラはどんどん出ます

一応、普通のアイドルスターとアイドルスター、ゼノグラシアの
両方を取り入れてるつもりです

運命編 第二話 黒宮翔の悲劇

モンテンキントーロ本部 格納庫

あずさ「はじめまして、アイドルマスター候補者のみんな」

あづさの話を聞いてない翔は・・・

翔（俺の機体はどうだ？）

自分の機体の心配をしてた

あずさ「じゃあ、今から診断だから着替えて来てね」

勇「なんか楽しいね、こい」

統魔「お前遊びじゃねえんだよ・・・って黒宮さん？」

勇「翔ならシャワー浴びに行つたま」

シャワールーム

ザアアアア…

翔（今からテストってかなりめんどくさいな）

翔はシャワーを浴びながらそう思った

翔（これから俺たちは世界の修復つて何をやつするんだ？）

翔はシャワーを止め、頭をタオルで吹きながらシャワールームを出た
すると…

雪歩「えつー？ 翔さん！？」

着替え中の雪歩がいた

翔「えつ？ 雪歩…ー？」

そして…

雪歩「キヤアアアアアアー！」

雪歩が軽いパニックになりドライヤーやカゴを翔に投げた

翔「痛てー止めろつて雪歩…ー俺が出るから」

しかし、雪歩はお構い無く

雪歩「見ないでえええー！」

バゴン！

ビンタが来ると思ったら腹と顔にストレートパンチを食いつた…

トレーニングルーム

雪歩「ごめんなさい翔さん……」

翔「まあ大丈夫だって、心配すんな雪歩」

翔が雪歩を慰めていると…

伊織「アンタ…その子に向したのよー?」

伊織がオーテ口を光らせながら問い合わせてきた

翔「ちょっとしたハピニングで…顔近いぞオーテ口もさ」

伊織「なにがハピニングよー?あと、私はオーテ口をさじやなくて伊織よ!」

翔「ああ~わかったデ口織」

伊織「キイイツー!アンタわざと間違えたでしょー!」

翔「あつ、バレた?」

翔はわざと伊織をからかっている中…

勇「へえ～春香ちゃんってかなりドジなんだね」

春香「ち、違うよー！私はつこけやすいだけだよー。」

勇「あはは・・・」

すると…

あずや「さて、今からテストを始めるよ。」

統魔「待て、測定じゃないのか？」

あずや「測定と並んでのテストよ。」

統魔「・・・理不尽だ」

この後、翔たちはテストを受けたが…

とある港

千早（私は、絶対インベルを取り返して見せる）

千早はヌービアムに乗り込むと、キーを差し込みヌービアムを起動した

モンテンキント」P本部 指令室

楳馬「課長！ヌービアムの反応を確認しました！」

ジョセフ「分かりました、新人を行かせて下さい」

あずさ「課長！正気ですか！？」

ジョセフ「大丈夫です、伊織君はバックアップについて貢いますから」

あずさ「・・・分かりました」

1番格納庫

伊織「私がバックアップー?」

あずさ「ううよ、今回アナタがバックアップするのは…」

伊織「なんで!? 相手はヌービアムなのよー?」

あずさ「課長から言われたから仕方ないじゃない」

伊織「…納得いかないし」

伊織は納得がいかないもののあずさの話を聞いてた

あずさ「さて、今回行くのは…って黒富君は?」

あずさはさつきからいない翔を探したが…

勇「えつ? 翔なら…あれ?」

7番格納庫

翔「ふう…もう少しマトモなパイロットスーツは無いのか?」

翔は青色のパイロットスーツを着ながら、呟いた

翔「まあ良い、久しぶりに暴れるか

翔は青色のメモリを見ながら呟き、自分のコックピットに向かった

指令室

楳馬「……!?課長! 7番格納庫からエネルギー反応が…!?

名瀬「カタパルトに向かつてます!」

空羽「いつたい誰が…!?

すると…

翔「すいませんね課長さん」

雪歩「翔さん！？」

櫛馬「なんで彼が！？」

ジョセフ「・・・なぜ独断で走りましたか？」

翔「・・・規則に反してるのは分かつて
けど、今は行かなきゃいけないだろ？」

ジョセフ「・・・・・・・分かりました、名瀬君、報告書はよ
ろしくお願ひいたしますよ」

名瀬「えつ～私ですか～？」

カタパルトの途中

翔「さて、久しぶりの戦闘だ」

月下（翔の機体）の足元の入り口が開き、下にゅうくり落ちた

翔「えっと、飛翔滑走翼はクリア、輻射波動もチェック済み……」

下に落ちると月下の5メートル先の発進口が開いた

翔「よし、じゃあ行くか」

月下は足のラングスピナーをレールに乗せた
そして…

翔「月下！アクトオン！」

キキイイイイイイッ…！

激しいスリップ音がすると、月下は出撃した

翔「ああて、悪党退治としますか」

月下は飛翔滑走翼を展開し、ヌービアムの所に向かった

上空

千早「来た…」

千早はインベルが来たと思ったが…

リファ「千早～全然違つのが來たじゃん」

千早「えつ…？」

そして、千早の田の前に現れたのは・・・

翔「月下、目標を捕捉撃破する」

翔の乗った月下だった

運命編 第二話 黒宮翔の悲劇（後書き）

月下
ゲッカ

輻射波動は使えるがあまりカンペキでは無い

これはコードギアス 反逆のルルーシュ LOST

COLORS

のオリジナル機体

月下（先行試作機）と同じ

違う所は

飛翔滑走翼が使える

右腕に紅蓮式式と同じ輻射波動がある

運命編 第四話 任務（前書き）

今日は翔のヌービアム戦があります
そして、翔と雪歩が・・?

運命編 第四話 任務

翔「月下、目標を捕捉撃破する」

月下はヌービアムに先行攻撃を仕掛けたが…

千早「邪魔よ！！」

千早はインベルジヤない事にムカつきながら月下を攻撃した

ガキン！

翔「動きを止めるか…」

月下は腰に一つあるスラッシュユハーケンをヌービアムに打ち込んだ

千早「くつー？」

ヌービアムは避けようとしたが…

シユキン！

スラッシュユハーケンの一つが引っ掛けた

千早「……このー！」

ヌービアムはそれを振り切った

翔「まだまだ！」

モンティンキントーラ本部 指令室

あずさ（あのヌービアムを対抗出来る！？）

誰もが勝てると思ったその時だった

ド「オオオン！-

空羽「また7番格納庫で爆発を確認！」

櫛馬「今度はなんだ！？」

あずさ「・・・まさか」

ジョセフ（・・・やつと田観めましたか）

ジョセフはいつたにんが分かつていた
その時

公園 湖の近く

春香（…………！？今のは…………）

その時、春香の持っていたキーが光った
そして……

ドゴォオオン！！

春香の田の前にヌービアムが落ちた

翔（…………コイツ、対したこと無いな）

翔はヌービアムを見ながら、月下を地上に向かった

千早（くつー）

千早はヌービアムを起こしながら月下旬の対策を考えていた
すると・・・

千早（あら、良い人質がいるじゃない）

千早は春香を捕まえ、人質にしようとした

春香（えつ？なに？）

春香はヌービアムに捕まりそうになつた
その時

ズガアアアアン！！

ヌービアムは派手に吹つ飛んだ
そして・・・

春香「なにが起きたの・・・？」

春香の前に現れたのは白いロボットだった

春香「えつ・・・・・」

千早「嘘でしょ……………！」

翔文コイツは・・・・・

モンテンキントーレ本部

あずさ「インベル・・・・・」

「マジか……」

空羽「スゴイ……」

名瀬「初めてみた・・・」

翔「さて、コイツを試すか」

月下はヌービアムの右腕を掴んだ

千早「このつ……」

そして……

翔「弾け飛べ！」

力チツ！

月下の輻射波動が作動し、ヌービアムの右腕が蒸発した

千早「キヤアアアア！！」

ヌービアムは生きていたが……

千早「くつ……撤退ね……」

ヌービアムは左腕で右腕を抑えながら逃げた

「この有り様を見たあずさは・・・

あずさ「・・・・・・・」

名瀬（あれは、HDOJなのですか…！？）

櫛馬（右腕が弾け飛ぶなんて…）

統魔（あれが輻射波動、そして・・・）

統魔はモニターを見ながらジョセフをチラ見した

ジョセフ（なるほど、これが彼の力ですか…）

「つして、翔はヌービアムを撃退した

後日

統魔「はっ！」

ジャキン！！
バキュー！！
ドカーン！！

統魔はランスロットの兄弟機、ランスロットクラブ エアキャヴァルリーに乗り、MVSでドロップを切り裂き、可変ライフルの狙撃モードで撃ち抜いた

勇「！」の計算なら・・・行けるよ春香ちゃん！」

春香「たああああつ！」

勇は月下旬に乗りドロップの予想ルートを計算し、春香のインベルが破壊した

モンテンキントロ本部 食堂

ピィィィィッ！

春香「出来た～！」

春香はホットドッグをレンジから取りだし、袋を開けたが…

春香「あつーーあわわあわー！」

ホットドッグが春香の手から離れ…

勇「よつと」

勇がうまくキャッチした

春香「ありがとつ勇くん！」

勇「やつぱり春香ちやんつドジだよね？」

勇は春香にホットドッグを渡したが…

春香「ドジじゃなこー！」

わふと・・・

統魔「ずいぶん楽しそうだな」

統魔が「ホール」を飲みながらやって来た

勇「めひやへひや楽しこよ

統魔から「ホール」を貰いながら答えた

春香「やつこんば、翔さんは？」

統魔「多分、格納庫だろ？」

7番格納庫

翔は月下の前に立っていた

翔（「トイツが俺の力か・・・」）

翔が月下を見ながら考えていると…

ピタッ

雪歩「なにしてるんですか？」

雪歩が翔の頬に缶コーヒーを当てながら聞いた

翔「ああ、ちょっとな・・・」

翔は苦笑いしながら缶コーヒーをもらつた

雪歩「私、さつきショミーターで判定が出たんですね」

雪歩は少し声のトーンを下げるが如く話した

翔「……不合格だつたのか？」

雪歩「……はい……グスツ……」

雪歩は泣きながら答えた

雪歩「わ、私なんかが……グスツ……アイドルマスターの資格なんてありませんよね……グスツ」

雪歩が泣きながら話していると……

翔「それは違うな」

翔は雪歩の頭を撫でながら答えた

翔「雪歩、人はそれぞれ違うんだ
俺やお前だって違うだろ?
人には得意や不得意があるだろ?」

ことわざに10人10色って言葉がある
みんな違っているから面白いだろ?」

すると雪歩は……

雪歩「し、翔さん……私……」

そして……

雪歩「う、うわああああん……！」

翔に頭を撫でられながら雪歩は泣いた

雪歩（なんだか…翔さんはあの人と同じ温かさを感じる…）

雪歩は一番大事にしてるあの人人の事を思い出した

雪歩（でも、もう少ししたら帰れるんだよね…あの温かい場所に…）

雪歩が考えてみると…

ビィィィイイッ！
ビィィィイイッ！

翔「ドロップか…雪歩、悪いけど行くな」

翔は脚下の所に向かった

雪歩（私は…・・・どうすれば良いの・・・？）

雪歩はキリンのストラップを見ながら思った

5番格納庫

統魔「亜美、クラブの整備は間に合いますか?」

亜美「はい、ただヴァリスが一つしかエナジーフィラーの補充が間に合わなくて」

統魔「いや、十分だ」

真美「でも兄ちゃん、可変ライフルは使わないの?」

統魔「あれは対ドロップ用じゃないし、仮にあれで撃つても破壊は無理だろ?」

統魔がクラブの最終チェックを見ながら答えていると・・・

あずさ「九条くん、あなたにはドロップの破壊は行かなくて良いです」

統魔「はつ? あずさんなにいってるんですか?」

あずさ「あなたは、黒宮くんと一緒に待機してもらっています」

統魔（トウリアビータ対策か…）

統魔はちょっと考えると…

統魔「わかった、ただドロップは誰が行くんだ？」

あずさ「大丈夫、春香ちゃんが行くから」

春香「いよいよだね… インベル」

春香は単独の初任務に緊張していた
すると…

「ダイジヨウブ」

春香「えつ…？ インベル？」

「ハルカナラデキル」

モニターにインベルの思いが写し出され、春香は落ち着いた

春香
インベル…うん

そして・・・

春香「インベル・アクト・オン!」

指令室

名瀬「インベル、「ースに無事乗りました」

楳馬「大丈夫そうですね」

しかし・・・

空羽「えつー...ドロップさらに増加!-?」

あずさ「なんですかー!-?」

楳馬「ベータ、デルタ、イプシロン、シグマが追加!-?」

名瀬「いや増えたり減つたりしてるー!-?」

ジヨセフ「どうこうとですかー!-?」

雪歩「外部のハッキングです！」

あずや「嘘でしょ…！」

とある島 バスルーム

リファ「これで良いよね千早」

千早「ええ、あとはインベルを奪うだけよ」

地球の近く

春香「あれって…！」

インベルの前に現れたのは、ヌービアムだった

千早「インベルは返してもいいわよー。」

ヌービアムはインベルを殴ったり、蹴るなどの攻撃をし、ダメージを『えていた

モンテンキント 指令室

雪歩「春香さんー。」

モニターに『つたのは、インベルがボロボロになつた姿だつた

運命編 第四話 任務（後書き）

月下（勇専用機）

この機体は翔の月下とは違い、先行試作型と同じである
輻射波動は戦闘向きでは無く、サポートである
まあ、対した事はない？

運命編 第五話 海（前書き）

後半は、季節外れのギャグパートです

運命編 第五話 海

モンテインキント 指令室

モニターに映ったのはインベルがボロボロになつた姿だった

雪歩「春香さん！」

空羽「パイロットの身体値段下ー！」

すみと翔は・・・

翔「くそつー！」

翔は指令室を飛び出した

勇「翔！待つてよー！」

勇も指令室に飛び出して行つた

地球の近く

千早（インベル、今その少女から解放してあげるから）

千早はそう思つてヌービアムはインベルを持ち上げ
そして・・・

千早「死ね」

ヌービアムはインベルを地球に投げ飛ばした

モンティンキンント 指令室

楳馬「あのまま落ちたら・・・」

名瀬「落トの衝撃を直にくらつてしまつー。」「・・・」
雪歩「春香さん！ 応答してくださ〜春香さん・・・」

誰もが絶望していたが・・・

インベルが落下する直前赤いなにかがあった

あずさ「あれって・・・」

真美「テンペスター！」？」

とある森

翔（アイツは！？）

翔はギリギリに間に合つたが、テンペスターが抑えていた
しかし、落下スピードは落ちなかつた

翔（いけるか分からぬけど、やるしかない！）

翔は月下の右腕の輻射波動を衝撃波に変え、地面に向かつて放つた

翔「くつ！」

このあと、どうにかインベルを止められたが…

春香は全治3日のケガをした

後日 月見島

真美「海だあ～！」

真美たちは田の前の海にテンションが上がっていた

翔「つたぐ、なにが海だよ？」

勇「翔も泳ぐ気満々じゃん」

勇は翔のバッグを見て言った

翔「・・・お前もな」

翔は勇のバッグを見て同じ事を言った

勇「とりあえず、泳げりまおーー！」

と訳す訳で…

統魔「亜美、真美、あんまり遠くまで行くなよーー！」

統魔は翔たちと同じように長めの海パンにしてるちなみに、亜美と
真美は・・・

亜美「ど、どうですか統魔さん？」

真美「もしかして、真美たちに萌えたー？」

何故か知らんがスク水である

統魔「あのなあ…俺はちびっこに興味無いの
分かるか?」

すると…・・・

真美「だつたら脱いだら良いの?」

統魔「えつ?」

亜美「と、統魔さんが望んでいるなら…」

統魔「ちょ、ちょつと待てお前ら! 悪かつた! 俺が悪かつた! だか
ら脱ぐな! 俺が命令したみたいになるから! ?」

この後、統魔はみんなから口々コン疑惑が立てられた…

統魔「不幸だあああああー! ?」

海の近くの堤防

勇「ふう…海風が気持ち良いよ

あずさ「そうね、海風が心地良いわ

勇「うううう…つひあすたさん?」

勇の隣にあずさがいた

あずさ「あひ、ビリしたの勇くん？」

勇「・・・なんでビキニすか？」

あずさ「大人の水着はいつでしょ？」

しかもあずさが着けてる水着は黒色のビキニだ

あずさ「なんか飲み物買ってきまわ」

勇「いや、一緒に行きましょ」

勇とあずさはジユースを買いに行つた・・・

海の家

翔「ふう、焼きそばでも食べるか？」

ジョセフ「おや、黒富くんでは無いですか？」

翔「あつジョセフさん、焼きそばあります?」

ジョセフ「分かりました、ちょっと待つて下せー

翔がちょっと待つていると・・・

雪歩「課長さん、ラムネを……つて翔さん…？」

翔「 ゆめ・・・ほ・・・ー?」

翔は雪歩を見たが雪歩の水着は……

雪歩「え、どうですか…?」

虹色のビキニだった……

翔（か、可愛こ過ぎるだろ……）

そして……

雪歩「し、翔さん鼻血が……」

翔「まつ~鼻血?」

ポタポタ……

翔は雪歩のビキニを見て鼻血を出してこた……

雪歩「ほひ、動かないで下れこよ

すみじ・・・

むにゅ

翔の田の前には、雪歩の胸の谷間があった

翔（あつやべ、鼻血が・・・）

ブシャアアー！

この後、翔は大量に鼻血を吹きながら倒れた

とある島

リファ「千早、誰か来たよ」

千早「えつ・・・!？」

すると現れたのは・・・

? ? ? 「はじめまして、如月 千早さん」

千早「アナタは・・!」

そこに現れたのは・・・

姫「私は赤義 姫、アナタに会いに来たわ」

運命編 第六話 ウィンターテート（前書き）

頑張つて更新しました

運命編 第六話 ウィンターデート

雪兔高校
屋上

翔（……）の世界の修復と言ったものの、どう変えると……）

Digitized by srujanika@gmail.com

۲۷۰

翔（　・・・誰だ？）

ガチヤ

雪歩「翔さんですか？」

翔「なんかあつたのか?」

勧歩・いえ・・・その・・・」

雪歩はどこか様子がおかしかった・・・
すると・・・

雪歩「…………今度の休みに出かけませんか？」

翔
「
・
・
・
はあ
?」

そして、休みの日

翔（・・・つたぐ、休みの日になんだよ？）

するとい・・・

雪歩「お、お待たせしました・・・」

私服姿の雪歩が現れた

翔（・・・似合ひすぎだら）

翔は気づいた

翔（今はクリスマス、まさか…）

雪歩「じ、じやあ・・・テ、ティーに行きましたよ！」

翔と雪歩のクリスマスティーが始まった

モンテンキンストラ本部 茶室

カーラン・・・

ジョセフが抹茶を煎れていると・・・

ジョセフ「おや、お茶でも飲みに来たのですか？」

あずさ「ええ、課長も暇ついですね」

あずさが珍しくやつて來た

ジヨセフ「暇とは失礼な、はい」

あずさ「おつがどつぱれこます」

あずさはジヨセフから抹茶を貰い、一口飲んだ

あずさ「・・・やつぱつ苦こですよ・・・」

ジヨセフ「この苦さが持ち味なんですよ、やつぱればマスターの苦
れんは?」

あずさ「みんなクリスマスだから出かけでこます」

町 ショップ

春香「わあー！こんなにいつぱいあるんだね」

春香はショーケースに並んだクリスマスグッズを見て驚いていた

伊織「つたぐ、バカリボンつてあんなもので喜ぶなんて子供っぽい」

伊織はそんな春香を見て呆れていた

勇「そりゃう伊織も、たのしんでるじやん」

勇が楽しそうに笑つてゐると・・・

伊織「こ、これは律子が買つて」といつて言つから

伊織がツンツンしながら答えた

勇「はいはい」

勇と春香と伊織は十六夜寮でクリスマスパーティーを開く準備のために買い物を揃えるために来た

勇「律子さんに頼まれたものを買いに行つてって言われたけど・・・

「

勇の手元には律子に頼まれたリストがあつたが・・・その中には

勇「仮面?」

勇は疑問に思いつつ、春香と伊織の荷物係をした

雪歩「きれいですよね…」

翔「ああ」

翔は焦っていた

翔（手を繋ぐつて）こんなに大変か！？）

しかし雪歩は・・・

雪歩（・・・早く、あの人の場所に帰りたい）

雪歩はある人を思い出しながら、翔と手を繋ぎながら歩いてくると・
・

統魔「翔、何やつてんだ？」

翔「統魔！？」

亜美「雪歩さんもなにしてるんですか？」

統魔と亜美が手を繋ぎながら歩いてきた

翔「お前もなにしてんだよ！？」

雪歩「・・・統魔さんつて口つコンですか？」

統魔「いやいや待てよー！？、おかしいだろそれー！？」

亜美「わ、私たちは・・・その・・・」

統魔「……どう説明したらいいものか……」

すると、翔と亜美は黙ってしまった

翔「……まあか、さき合ひてるの?」

翔の一言は当たつた

翔「えつ~マジで当たつ?」

すると

統魔「ああー俺と亜美は付き合つてゐるーーだからなんだー?」

翔「真顔で言つたら気持ち悪いぞ口コロコロ」

雪歩「今のは、私でも勘弁して欲しいです口コロコロさん

この後、翔と雪歩は統魔たちと別れたが……

翔「雪歩」

雪歩「ん?なんですか?」

翔「雪、キレイだったな

雪歩「……はい」

翔「またいつか、来ような

雪歩「ええー！」

雪歩（翔さんは敵なのどうしてこんな感情を抱くの？）

雪歩は憮然とした

雪歩（・・・私は裏切るしか無いのかな・・・）

運命編 第六話 ウィンターテート（後書き）

今回は日常パートでしたが、次回は運命編の最終回ですか？

運命編 第七話 一人の思い（前書き）

すいません、前話で運命編でのコメディが終わると書きましたがどうしてもこの話を入れなければならなかつたのでごめんなさい

運命編 第七話 一人の思い

とある屋敷

千早「……」

姫「アナタは、インベルのデータを元にアナタだけのインベルを生み出すのよ」

千早「……そんなこと、出来るわけ……」

姫「それが出来るんだよ」

千早「えつー?」

姫「協力する?」

千早「……」

リフア「千早~コイシシ體を言つてるとかもしけな~」

リフア「ニヤニヤしながら體を言つてるとかもしけな~」

千早「……協力させて」

リフア「うん~アツビで言つてるので~」

千早(私だけのインベル……)

千早は自分がだけのオリジナルインベルが出来ることに気持ちが高ぶっていた・・・

姫（この子もバカよね、自分がだけのオリジナルインベルなんて危ないだけなのに）

姫はそんな事を思いながら、手のひらにある 王冠と鎌が書いてあるUSBメモリを見た

姫（さて、大地はもう着いたのかしら？）

公園

雪歩「ふんふんふーん」

雪歩は公園のハトにエサを上げながらまつたりしてると・・・

? ? ? 「萩原雪歩だな」

後ろから声をかけられた

雪歩「アナタが、千早さんの協力者ですか？」

雪歩は千早から協力者と会つて、ある物を取つたら帰還しなさいと言われただけである

大地「俺は松田 大地、如月 千早の協力者だ」

雪歩「で、私はなにをすれば良いんですか？」

すると大地は、雪歩に黒いUSBメモリを渡した

大地「インベルのデータを入れ、モンテキントロにサーバーにウイルスを仕掛けろ」

大地は、雪歩にそう告げると去ろうとしたが・・・

大地「あっ、忘れてた」

大地は雪歩になにかを思いだし、言った

大地「ミッションが終わつたらモンティントを破壊するからな」

大地はそう言つと去つていった・・・

雪歩（これが、私の最後のミッションだよね、そしたら・・・）

しかしその時、雪歩の頭の中にはある人物が現れた・・・

雪歩（・・・翔さんに本当の事を言つた方が良いのかな・・・）

翔・・・雪歩にとつては大事な人だ

アイドルマスターの試験の時も、隣で慰めてくれた・・・

月見島の時は、一緒にいた・・・

この前のデートにも付き合ってくれた・・・

雪歩にとって翔は、好きな人だ

しかし・・・

雪歩（もし、私がスパイだって知つたらどうなるのだ？）

雪歩は翔にまだ自分がトウリアビータのスパイである事を伝えていなかつた

雪歩（もう・・・時間も無いんだよね・・・）

十六夜寮 キッチン
ントントン

翔（・・・俺は、雪歩が好きなのか・・・？）

翔は斬りながら、考えていた

翔（・・・仮に好きならば、俺は必ずやれば良い。）

考えながら斬つていると・・・

バキン！

翔（やばー！？）

まな板まで斬つてしまつた

翔「律子に怒られるな・・・」

すると・・・

ガラガラ・・・

雪歩「ただいま、戻りました」

雪歩が買い物袋を持つて帰つてきた

雪歩「あれ、皆さんは？」

翔「ああ、律子はテコと春香と一緒にケーキを取りに、統魔は双子とプレゼントを買いに、勇は・・・」

雪歩「勇さんになにがあつたんですか？」

翔「・・・荷物運びで、死にかけたらしい」

雪歩「・・・えつ？」

翔「まあ、しばらく寝かせれば大丈夫だる」

翔は苦笑いをしながら料理を作っていた

町

真美「うわあすっ！」——！

真美は目の前のたくさんのがいぐみを見て興奮してた

統魔「そんなに喜ぶか？」

統魔は笑いながら真美を見ると・・・

亜美「あの・・・統魔さん、これ似合います？」

亜美がネコ///をしてた

統魔「あ、ああ・・・似合つてるよ」

統魔と亜美は両思いなのだが・・・

真美「もう一兄ちゃん！-! 真美の事も見てよ-。」

真美が頬を膨らませながら見てた

「はいはい・・・ほら、一人ともそろそろ帰えるぞ」

十六夜察

全員「メリークリスマス！！」

パン！！

翔、勇、統魔、春香、亜美、真美、雪歩、律子、伊織はクラッカーを鳴らし、喜んでいた

勇「メリークリスマス！！」

真美「メリクリ！！」

春香「真美ちゃん、略しちゃダメでしょ」

亞美「はい統魔さん、あーん」

統魔「あ、あーん」

律子「・・・ロココン」

統魔「だ、誰がロリコンだー?」

「うひって、みんな騒いでるなか・・・

翔「ふうー」

雪歩「あれ? 翔さん食べないんですか?」

翔と雪歩は十六夜寮の外にいた

翔「ん? ああ、いやひよっとな

翔がふつわらげて話すと雪歩は・・・

ギコツ

翔「・・・雪歩?」

雪歩「しまむらへりあむかわくわこ」

雪歩は翔の後ろから抱きついた

翔(・・・なんだ、この落ち着く感覚は・・・)

翔は雪歩の胸が当たつてると別に、心の安らぎを感じた

雪歩（もひ、翔さんとも会えなくなるから後悔が無いよ）
翔（うーん）

雪歩は後悔が残らないように頑張っていた

翔と雪歩（今、雪歩（翔さん）に言った方が（良こよね）良こよ
な）

翔と雪歩は両思いなのだが、翔はモンテキントの人間、雪歩はトウ
リアビータの人間
そう、お互い敵同士なのだ（翔はまだ知らないが）

翔「なあ、雪歩」

翔は雪歩を呼ぶと・・・

雪歩「なんですか翔・・・ん！？」

キスをした

雪歩「ん・・・ん」

翔は顔を真っ赤に染めながら言った

翔「俺、雪歩のこと・・・好きだ！」

雪歩「・・・ふえー？」

翔「だから・・・その・・・雪歩のことが大好きなんだよーーー！」

雪歩「え、えっと・・・その・・・わ、私も翔さんのことが大好きですーーー！」

この後、二人は十六夜寮の外でしばらくいた

運命編 第七話 一人の思い（後書き）

次回予告

ついに告白した、翔と雪歩

しかしそんな幸せな二人の前に一人の運命を左右する出来事が・・・

そして、モンテキントJPが最大の危機！！

果たして、どうなるのか！？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4829y/>

アイドルマスターゼノグラシア 死神の物語

2011年12月25日21時53分発行